

都市再生整備計画

しづがわこうりゅうきよてんちく
志津川交流拠点地区

みやぎけん みなみさんりくちょう
宮城県 南三陸町

令和2年1月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	
都市再生整備計画事業	■
まちなかウォークابل推進事業	

都道府県名	宮城県	市町村名	みなみさんりくちよう 南三陸町	地区名	しづがわにうりゆうきよてんちく 志津川交流拠点地区	面積	46.8 ha
計画期間	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度			交付期間	令和 2 年度 ~ 令和 4 年度		

目標

- 大目標 南三陸町らしい賑わいと町内外の様々な人たちが行き交う活気溢れるまちづくり
- 小目標1 利便性を向上させる施設の整備等により、活力ある「観光・交流・交通」体制を構築
- 小目標2 「町民が潤える空間」の再構築
- 小目標3 交流拠点地区区内の回遊性を高め、町内外の人々が集い、コミュニケーションが生まれる場の形成

目標設定の根拠

- ・本町は、宮城県北東部に位置し、リアス式海岸の豊かな景観を有する三陸復興国立公園の一角を形成しており、東は太平洋に面し、北は気仙沼市、南は石巻市、西は登米市にそれぞれ接している。
- ・面積は163.40km²で、東西南北とも約18kmで、海岸部は、日本有数の養殖漁場になっている。気候は太平洋岸に位置するため、海流の影響により夏は涼しく、冬は雪が少なく、比較的温暖な地である。
- ・本町は平成17年10月に旧志津川町と旧歌津町が合併することによって誕生し、平成19年には「南三陸町総合計画」をまちづくりの指針として策定し、「自然・ひと・なりわい」が紡ぐ安らぎと賑わいのあるまち・南三陸町を目指していた。
- ・しかしながら、平成23年3月11日に発生した東日本大震災によって、本町は甚大な被害を受け、目指してきたまちづくりの継続は困難となり、「南三陸町震災復興計画」に基づき、復興を最優先としたまちづくりを進めてきた。
- ・平成26年5月には志津川市街地の復興後のイメージとして世界的建築家である隈研吾氏よりランドデザインが提案された。
- ・平成27年9月には中心市街地の賑わいの回復、地域経済の拠点整備、住民生活を支える商業機能の回復等を計画のかつ迅速に実行することを目的に「南三陸まちなか再生計画」を策定。
- ・まちなかの1つとして志津川地区を対象区域に指定し、道の駅などの観光を先導する施設の立地や一定ルールに基づいた店舗等による一体感のある拠点の早期形成、「しおさい通り」には町民向けや観光客向けとして、被災前の志津川中心市街地に立地していたような個人店舗を中心とした比較的小規模な施設を立地し、歩いて楽しい、美しいまちなみの商店街を形成し、市街地へ誘導する旨を記載している。
- ・平成28年3月には、まちづくりの最上位計画に位置づけている総合計画について、「南三陸町第2次総合計画」を策定。まちの将来像「森里海ひと いちめぐるまちなか南三陸」を定めるとともに、まちづくりの4つ視点(①地域文化の伝承(伝承・防災・循環)、②多様なコミュニティの再構築(つながり・人づくり)、③交流・定住人口の増加(感謝・おもてなし・ふるさと意識)、④産業のブランド化(仕事・雇用・連携))に取り組み、まちづくりを進めていくこととしている。
- ・平成29年3月、まちなか再生計画に記載された「同拠点内に立地する店舗等は、一定のルールに基づき、協調して立地、営業することにより、一体感のある拠点を早期に形成」の記載に沿う施設として、「南三陸さんさん商店街」を本設オープン。
- ・現在、さんさん商店街も含め、一体として「道の駅」の整備を計画しており、隈研吾氏に設計業務を委託しているところ。
- ・「しおさい通り」については、区画は整備されたものの、活用方法が定まっていないため多くが空地となっている。

課題

- ・南三陸町の大きな課題として人口減少が挙げられる。震災以前より減少傾向であったが、震災による多数の死者・行方不明者に加え、長期間にわたる仮設住宅での生活や避難先での生活基盤の確立により、町内の人口は大きく減少。現在は震災復興計画における人口推計を大きく下回っており、今後も少子高齢化の波も相まって更なる人口減少が予想される。
- ・定住人口の減少を抑制するとともに、一定の関係人口を持続的に確保することにより、定住人口の減少をカバーすることが必要である。
- ・さんさん商店街の本設オープンにより観光客入込数は大幅に増加したものの、これが一過性のものとならないよう、地区全体の魅力を高め、観光客数を維持していく取り組みが必要。
- ・そのためには、「観光・交流・交通」の利便性の向上、町民を志津川市街地へ誘導するような「潤える空間」の整備が必要。
- ・また、地区内の回遊性を高める工夫により、様々な人たちのコミュニケーションを生み出し、賑わいと活気を持続的に作り出していく必要がある。

将来ビジョン(中長期)

・「南三陸町第2次総合計画」において、まちの将来像「森里海ひと いのちめぐるまち 南三陸」を定め、その将来像を実現するために、まちづくりの4つの視点（①地域文化の学習、②多様なコミュニティの再構築、③交流・定住人口の増加、④産業のブランド化）及びそれらを踏まえた5つのリーディングプロジェクト（①移住・定住人口の増加プロジェクト、②交流人口の拡大プロジェクト、③南三陸ブランド構築プロジェクト、④多様なコミュニティの再構築プロジェクト、⑤地域文化の学習プロジェクト）を設定し、全ての“絆”を大切にしたまちづくりに取り組んでいくこととしている。
※この他、地方創生に集中的に取り組むことを目的とした「南三陸町総合戦略」があるが、現在、令和2年度からの「南三陸町第2期総合戦略」の策定を行っているところであり、「南三陸町第2次総合計画」との連動性を確保した内容として策定していく予定。

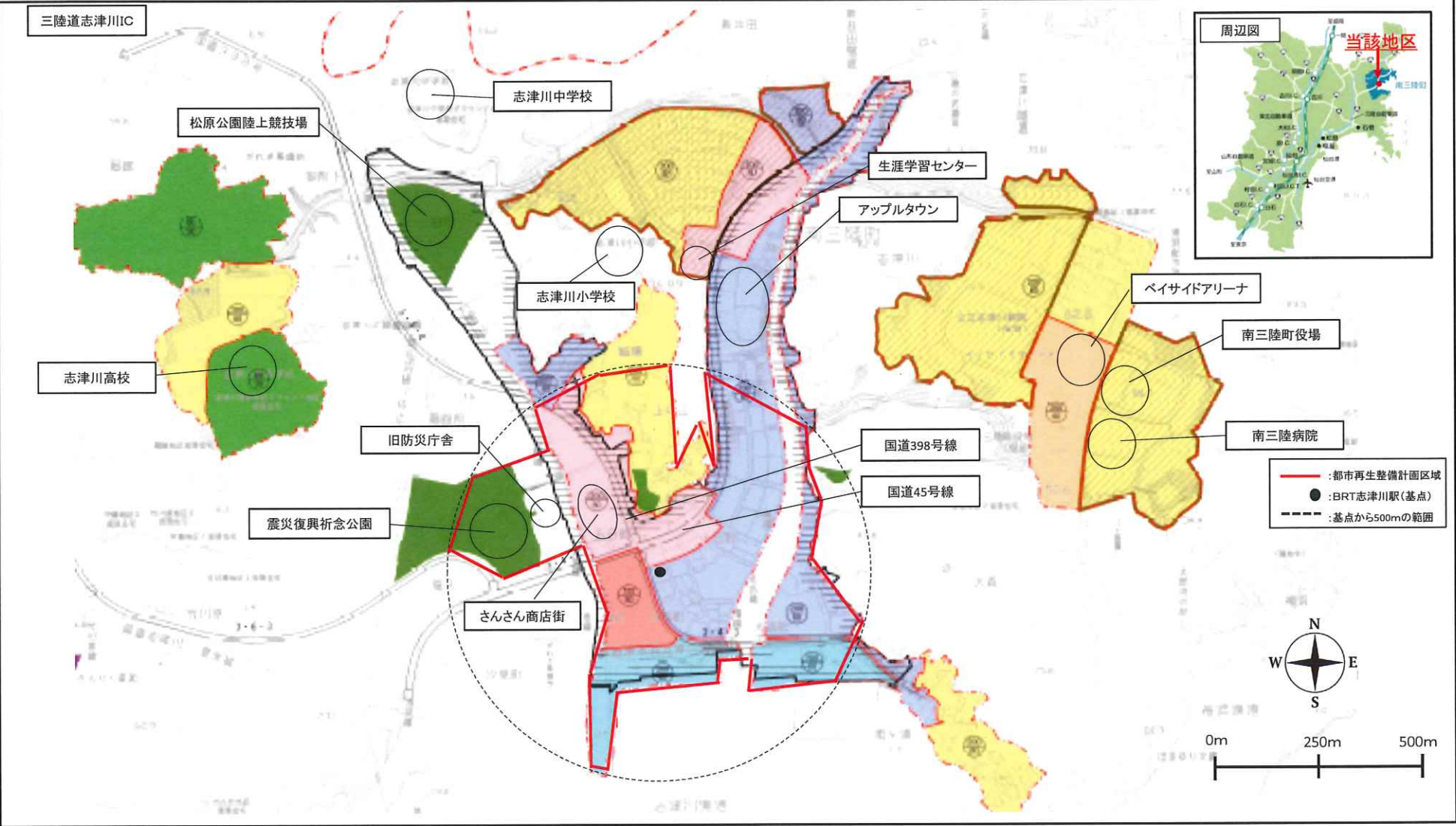
目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
複合交通センター利用者数	人/年	複合交通センターの年間利用者数	小目標1に対応する指標。複合交通センターの年間利用者数を把握することで、利便性の向上を確認するための指標。	38,277人	平成30年度	40,000人	令和4年度
町民の満足度	%	「しおさい通り」を利用した町民の満足度(アンケート調査)	小目標2に対応する指標。「しおさい通り」を利用した町民の満足度を調査することで、「町民が潤える空間」となっているかを確認するための指標。	0	令和元年度	50%	令和4年度
地区内回遊率	%	地区内に訪れた方の地区内回遊率(アンケート調査)	小目標3に対応する指標。伝承施設(駅舎内)、さんさん商店街、復興祈念公園、しおさい通り、上の山公園のどこを回ったのかを調査することで、地区内の回遊性が高まっているかを確認するための指標	0	令和元年度	50%	令和4年度

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
整備方針1 「観光・交流・交通」環境の整備 ・町外からの公共交通機関の玄関口となる複合交通センターを整備し、観光客の交通の利便性を向上。 ・町外から自家用自動車で来町される方等のために施設に付帯した駐車場を整備し、利便性を向上。 ・観光交流センターに観光案内所を設置することにより、観光客が観光情報を得やすい環境を整備。 ・駐輪場を整備することにより、町民及びレンタサイクル利用者(観光客)の利便性も向上。	■基幹事業 高次都市施設(地域交流センター、観光交流センター) ■基幹事業 高次都市施設(複合交通センター) ■基幹事業 地域生活基盤施設(自転車駐車場) □提案事業 地域創造支援事業(震災伝承施設) □提案事業 地域創造支援事業(交通情報発信機能施設)
整備方針2 町民が潤える空間の整備 ・うみべの広場を整備することにより、町民が家族で穏やかな時間を過ごせる空間を創出。 ・社会実験やワークショップの実施により「町民・地権者・事業者(民間)・町」が一体となり、「しおさい通り」を「町民が潤える空間」としてともに作り上げる。 ・(ワークショップ等の結果にもよるが、現時点の構想として)地権者から暫定利用であれば賃借可能との声があることから、移動可能な箱物(モジュールハウス等)を利用し、チャレンジショップ出店が可能な空間を整備。 ・住宅は高台にあるため、「しおさい通り」には自家用車を利用してくることになるので、チャレンジショップ用の駐車場を整備し、「しおさい通り」に町民が足を運びやすい環境を整備。	■基幹事業 地域生活基盤施設(うみべの広場整備) ■基幹事業 地域生活基盤施設(しおさい広場(仮称)) □提案事業 地域創造支援事業(チャレンジショップ空間の整備) □提案事業 まちづくり活動推進事業(ワークショップの開催) □提案事業 事業活用調査(社会実験の実施) ○関連事業 土地活用促進等モデル調査
整備方針3 地区内の回遊性を高め、町内外のコミュニケーションが生まれる環境を整備 ・さんさん商店街の道路向かいの「上の山公園」は津波被害により現在も立入り禁止となっているため、公園を改築することにより、町内外から地区内に訪れる子供連れが遊べる場所を整備。公園整備により、子供を介したコミュニケーションが生まれることも期待できる。 ・津波で被害を受けた志津川保育所跡地を駐車場として整備し、地区内を訪れた方の利便性を向上。 ・地区内の回遊マップを作成することで、観光客のみならず町民の回遊率も高める。(マップ内に距離数や消費カロリーを記載することでウォーキングなどの健康志向に働きかける) ・うみべの広場へも観光客を回遊させることで、町民と観光客のコミュニケーションが生まれることも期待できる。	■基幹事業 地域生活基盤施設(うみべの広場整備) ■基幹事業 公園(上の山公園の改築) ■基幹事業 地域生活基盤施設(駐車場整備) □提案事業 まちづくり活動推進事業(地区内回遊マップの作成) ○関連事業 震災復興祈念公園整備事業 ○関連事業 中橋整備事業(災害復旧事業)
その他 ○ 整備方針2に記載している関連事業「土地活用促進等モデル調査」は復興予算にて町内の民間企業者が実施しており、令和元年度中に報告書を取りまとめる予定。 当該事業ではしおさい通りの活用方法について調査・検討を行っている。R2年度に提案事業により引き続き社会実験やワークショップを実施することで、復興予算で実施した土地活用促進等モデル調査を有効活用できるものと考えている。 ○ 整備方針3に記載している関連事業「中橋整備事業(災害復旧事業)」は道の駅エリアと震災復興祈念公園を繋ぐ橋であり、完成は令和2年9月を予定している。 ○ 整備方針3に記載している関連事業「震災復興祈念公園事業」については、令和元年12月に一部開園、令和2年秋頃に全体開園の予定である。	

[illegible]

しづがわこうりゅうきょてんちくみやげけんみなみさんりくちよう 志津川交流拠点地区(宮城県南三陸町)	面積	46.8 ha	区域	南三陸町志津川字廻館前、城場、上の山、五日町、十日町、塩入、汐見町、南町、本浜町、大森町、大森、天王前、新井田 地内
--	----	---------	----	--



しづがわこうりゆうきょてん ちく みやぎけんみなみさんりくちょう
志津川交流拠点地区(宮城県南三陸町) 整備方針概要図(都市再生整備計画事業)

目標	○南三陸町らしい賑わいと町内外の様々な人たちが行き交う活気溢れるまちづくり ・活力ある「観光・交流・交通」体制の構築 ・「町民が潤える空間」の整備 ・地区内の回遊性を高め、町内外のコミュニケーションが生まれる場の形成	代表的な指標	複合交通センター利用者数 (人/年)	38,277人 (平成30年度) → 40,000人 (令和4年度)
			町民の満足度 (%)	0 (令和元年度) → 50% (令和4年度)
			地区内回遊率 (%)	0 (令和元年度) → 50% (令和4年度)

